

初心者のための 「ふるまち新潟をどり」鑑賞講座

久保 有朋
(旧齋藤家別邸学芸員・古町花街の会事務局長)

【ご連絡と注意点】

講座の録音・録画・撮影(スクリーンショット含む)はご遠慮下さい。
スライド資料(一部除く)は後日、砂丘館HP上に掲載します。

パワーポイント作成:岡崎 篤行氏(新潟大学教授)
〔花街〕一部加筆修正/〔今年の演目〕作成:久保 有朋
情報提供:市山 七十七郎氏(市山流家元)

「をどり」とは？

- ・「①花街(花柳界)」の
「②邦楽・日本舞踊」公演
→日本の伝統文化に触れる貴重な機会
- ・京都五花街の「をどり」は、季節の風物詩
↓ ↓ ↓ ↓ ↓
- ・新潟でも、もっと盛り上げられないか？
- ・理解のためには、基礎知識が必要

以下、①②のキーワードに沿って解説します

京都五花街のをどり

- ・祇園甲部 ～都をどり(春)
- ・祇園東 ～祇園をどり(秋)
- ・先斗町 ～鴨川をどり(春)
- ・宮川町 ～京をどり(春)
- ・上七軒 ～北野をどり(春)

その他全国のをどり

- ・東京新橋：東(あずま)をどり
=毎年5月末、新橋演舞場
- ・新潟古町：ふるまち新潟をどり
- ・金沢三茶屋街：金沢をどり(毎年9月)
- ・福岡：博多をどり(毎年12月)など
→毎年開催の花街は希少

「をどり」の起源

・大阪のお座敷は広く、芸妓を総揚げして総踊りをさせる遊びがあり、これを舞台化したのが「都をどり」や大阪の「芦辺をどり」

(2014年5月23日放送、NHK Eテレ
「にっぽんの芸能」にて、東京大学教授
古井戸秀夫氏)

「をどり」の歴史1(都をどり)

- ・花街：京都・祇園甲部
- ・開始：明治5年
東京遷都後の京都活性化を意図した
博覧会の附属行事として80日間公演
- ・会場：祇園甲部歌舞練場
- ・公演：毎年4月、1日4回×30日
- ・流派：京舞井上流
- ・立礼様式の点前(てまえ、たてまえ)も、
をどりのために裏千家が創案

「をどり」の歴史2 (東をどり)

- ・花街：東京・新橋
- ・開始：大正14年
都をどりの影響、演舞場の柿落とし
- ・会場：新橋演舞場
- ・公演：毎年5月、1日3回×4日
(過去は年2回25日)
- ・流派：花柳流、西川流、尾上流

「をどり」の歴史3 (新潟をどり)

- ・花街：新潟・古町
- ・開始：昭和57年 ～上越新幹線開業記念
(昭和10年「舟江をどり」が新潟劇場で
4日間開催、時局により一度で終了)
- ・会場：りゅーとぴあ (当初は他会場)
- ・公演：毎年 (平成5年以降) 6月、1日2回
- ・流派：市山流 (古町には藤間流も有り)

花街とは？

- ・芸妓 (芸者) を呼べる料亭等が集積してきた市街地の一画…「地図に描かれない街」
= 街で最も格式の高い老舗料亭
がある場所 (ただし関西圏以外)
- ・「かがい」が正式な呼称 → 花街柳巷
(かがいりゅうこう)
- ・昭和からは、俗に「はなまち」とも
- ・「花街」= 場所、「花柳界」= 業界

花街と伝統文化

- ・花街は、日本のあらゆる伝統文化を
包括的に継承する唯一のシステム
- ・日本舞踊 (邦舞)、邦楽、和楽器
- ・和服、日本髪
- ・日本料理 (会席料理、日本酒、伝統食器)
- ・書画、骨董
- ・伝統建築 (数寄屋造り、銘木)、日本庭園
- ・茶道、華道、香道

- ・芸妓の職能 = 「おもてなし」と「芸能」
→ 年に一度、芸者衆総出演の舞踊公演
「〇〇をどり」

- ・花街 = 最後の純和風空間
かつ
貴重な地元文化
～ 方言、民謡、地元作家の書画、地元料理…

業界としての花柳界 = 三業

- | | |
|-------------|------------|
| (1) 置屋 | = 芸妓の養成・派遣 |
| (2) 料理屋 | = 料理と場所の提供 |
| (3) 茶屋 (待合) | = 場所のみの提供 |

- ・料理屋・茶屋をまとめて料亭とも
- ・料理屋・茶屋が置屋を兼ねることも

花街の歴史

- ・江戸期の遊所・吉原 ～文化・流行の発進地
- ・近代 ～芸妓の「花街」と娼妓の「遊郭」
- ・戦後まで**全国各都市に存在**
＝都市に不可欠な歓楽街（当たり前前の存在）
- ※昭和初期…全国:約600カ所, 新潟県:約50カ所
- ・昭和後期に全国的に衰退
- ・近年、**文化的、観光的**視点から再評価

全国の花街 1

- ・**京都五花街**
- ・**東京六花街**
～新橋、赤坂、神楽坂、霞町、浅草、向島
- ・その他都内：八王子、大井・大森海岸
- ・**金沢三茶屋街**
～ひがし、にし、主計（かずえ）町
- ・盛岡、山形、酒田、小浜、名古屋、岐阜、奈良、福岡、長崎・・・全国に約60箇所

全国の花街 2

- ・現役の花街(約60カ所)は**大半が料亭街**
- ・茶屋街：京都五花街、金沢三茶屋街
- ・料亭街：東京六花街、名古屋、博多、新潟、山形、長崎、盛岡 など
- ・歴史的町並みが残る大きな花街は、京都・金沢・新潟だけ
⇒古町は**全国最大の伝統的料亭街**

古町花街

- ・江戸中期～ 西堀通・古町通界隈に散在
- ・現在：古町通(8・9番町)を挟む東西**新道**
- ・明治中期に「**芸妓**」の花街が成立
- ・昭和初期の芸妓 約300人
→昭和51年 110人 →現在**22人**
- ・現在、料亭**12軒**(周辺含む) →**全国有数**
- ・料亭中心の**伝統的花街**では**全国随一**

街区構成

メインストリート = **古町通**
→商店街

花街建築

→**東西の新道**に立地

歴史的**花街**
を形成



古町花柳界の芸妓

- ・従来の芸妓 ～個人営業
- ・新規の芸妓 ～柳都さん（社員芸妓）
＝**振袖さん**（新人） + **留袖さん**（先輩）
「柳都振興株式会社」（柳都さんが所属）
昭和62年、全国初の現代的な芸妓育成・派遣会社として設立
- ・**立方**（たちかた）～踊りを担当
- ・**地方**（じかた）～演奏を担当

その他花柳界を支える人達

- ・料亭の女将さん、板前さん、仲居さんなど
- ・三業組合、置屋組合、柳都振興の職員さん
- ・舞、唄、三味線、鳴物などのお師匠さん
- ・茶道、華道などの先生
- ・柳都振興後援会の会員約100社など支援者
- ・新潟をどりやイベントに参加する一般市民

日本舞踊（邦舞）とは

- ・出雲の阿国が祖（江戸前期）
- ・歌舞伎の演目の中で発達
- ・歌舞伎役者から専門の振付師が誕生
→一般の門人も育成
- ・幕末(1852年)に14流派（市山流含む）
- ・現在、約120流派（日本舞踊協会加盟）
～地方の宗家は珍しい

市山流の歴史1

- ・18世紀前期から半ば頃（250年以上前）
～大坂の歌舞伎俳優の弟子、
市山七十郎が流派を興す
～大坂のほとんどの俳優を指導
- ・幕末期
～三代目が、花街として全国に知られた
新潟に滞在、門弟を育成

市山流の歴史2

- ・幕末・維新时期
～三代目の弟子、川田トシが、
四代目となり七十世(なそよ)を名乗る
(以降、女流舞踊家によって継承)
～新潟に定着し、古町花柳界を指導
- ・現在、七代目市山七十郎が家元
- ・平成14年 新潟市指定無形文化財
～東京の歌舞伎役者も指導

花街の邦楽（三味線音楽）

- ・雅楽、能楽、仏教音楽と並ぶ／俗楽とも総称
- ・語り物（浄瑠璃）
～義太夫（ぎだゆう）、常磐津（ときわづ）、
清元（きよもと）、新内（しんない）など
- ・唄い物
～地唄、長唄、大和楽（やまがく）など
- ・俗謡、民謡
～小唄、端唄、都々逸、
各地の民謡・新民謡など

[演目解説] 松づくし（長唄小曲）

概説：昔からお目出たい樹木とされてきた『松』を数え唄風に仕立てたお祝い物。一本目『池の松』から十本目の『伊勢の松』まで様々な松を唄い込んだ曲。

松づくしの見どころ

- ・2本の松の扇を使い、色々な形の松を作って華やかに踊る
- ・今年は4人の新人を含めて華やかに踊る

[演目解説] 手習子（長唄）

- ・初演：寛政4年（1792）年 江戸河原崎座
- ・作詞：初世増山金八
- ・作曲：初世杵屋正次郎
- ・概説：寺子屋からの帰り道、春の野辺で娘がおませに踊る可愛らしい曲。七変化舞踊の一曲。

手習子の見どころ

- ・寺子屋帰りの娘が道草をする様子を子供らしかったり、大人ぽかったり、様々な姿で表現
- ・今回は古町芸妓の振袖さんが三人立ちで踊る

[演目解説] 小唄三題（小唄）①

1. 秋の七草
恋に悩む女性の心情を秋の七草を歌詞に織り交ぜて唄った演目
2. 勝名のり・どじょっこ
勝名のり：相撲取りに見惚れる女性の心情
どじょっこ：どじょう取り的一幕

[演目解説] 小唄三題（小唄）②

3. 辰巳の左棲
・深川生まれの日本画家・伊東深水が作詞し、曲は二世清元寿兵衛がつけたと伝わる
・江戸時代、深川にいた「辰巳芸者」の艶やかさと勝気な気性の勇み肌を表現

[演目解説] 春調娘七種（長唄）

- ・初演：明和4（1767）年 江戸中村座
- ・作詞：不詳
- ・作曲：二世杵屋六三郎
- ・概説：江戸の人々のおめでたい新春行事を正月吉例の歌舞伎の人気狂言「曾我物」の作品に仕立てたもの

春調娘七種の見どころ

- ・正義のヒーローである曾我十郎と五郎に加え、源平合戦の悲劇のヒロインである静御前も登場する夢の競演が実現した特異な作風
- ・五郎と十郎が実際に小鼓、大鼓を演奏
- ・市山流にのみ伝承されている

参考文献・資料など

- ・「湊町新潟 古町芸妓」, 第一印刷所,210円
- ・藤村誠著「新潟の花街 古町芸妓物語」, 新潟日報事業所,1200円
- ・浅原須美著「東京六花街 芸者さんに教わる和のこころ」,ダイヤモンド社, 1600円
- ・火坂雅志著「新潟樽きぬた 明和義人口伝」, 小学館, 1400円藤田洋著「日本舞踊ハンドブック」
- ・三省堂, 1650円
- ・長谷川正晴編「日本舞踊辞典」日本舞踊社

「柳都新潟 古町花街たてもものマップ(5版)」

古町界隈の文化施設や観光案内所、古町柳都カフェ等で無料配布しています

- ・NHK Eテレ 毎週金曜21時～
「**にっぽんの芸能**」を是非ご覧ください
※再放送：翌週月曜12時～